

(教)初等教育実習の研究A (SA)

11612

担当者名 / Instructor 中西 仁

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

本授業の履修対象者は、産業社会学部子ども社会専攻の学生で、小学校にて教育実習を行う学生である。内容は小学校での教育実習の事前指導に位置付くものである。内容は、立命館小学校授業観察や、授業づくり、指導案の書き方などで構成される。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・教育実習の意義と内容が理解でき、心構えができる。
- ・立命館小学校の取り組みについて理解し、教育実習に必要な知識、理解を獲得できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

他の初等教職の科目、とりわけ、教育実習受講条件として実習前年度中に単位修得する 必要のある科目を中心に履修しておくことが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回(10月5日)	ガイダンス	教育実習の全体像と『初等教育実習の手引き』について
第2回(10月19日)	立命館小学校教育実習について I	立命館小学校関係者の講話(長谷川昭 教頭)
第3回(11月2日)	授業づくり I	指導案, 展開, 板書の理論的理解 (e黑板 基本技能含む)
第4回(11月16日)	立命館小学校教育実習について II	立命館小学校の授業観察
第5回(11月16日)	立命館小学校教育実習について III	立命館小学校の授業観察
第6回(11月30日)	授業づくり I	指導案, 展開, 板書の実践的理解(立命館小学校 川原田康文 教諭による講義)
第7回(12月17日)	教育実習について I	実習生の一日, 実習簿の書き方, 上回生との経験交流
第8回(1月11日)	教育実習について II	実習に望む心構え

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教育実習受講に際しての事前指導科目であるので、真摯で責任ある態度で臨むこと。また、日頃より新聞報道や書物講読等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席とレポート等で総合的に評価する。 3回以上の欠席は単位不認。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

第3回～第6回の立命館小学校関係の講義については、『まるごと立命館小学校メソッド！ -発見・創造、基礎基本-』（学事出版 2009）を使用する。購入手続き等は第1回講義時に指示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

10月5日のガイダンス時に、欠席・遅刻等を含め、詳細な連絡を行うので欠席のないように。
様々な連絡は、小学校教員養成課程サポートセンターを通じて行うのでメール及び掲示等には十分に注意すること。

(教)初等教育実習の研究A (SB)

11613

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

本授業の履修対象者は、産業社会学部子ども社会専攻の学生で、小学校にて教育実習を行う学生である。内容は小学校での教育実習の事前指導に位置付くものである。内容は、立命館小学校授業観察や、授業づくり、指導案の書き方などで構成される。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・教育実習の意義と内容が理解でき、心構えができる。
- ・立命館小学校の取り組みについて理解し、教育実習に必要な知識、理解を獲得できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

他の初等教職の科目、とりわけ、教育実習受講条件として実習前年度中に単位修得する 必要のある科目を中心に履修しておくことが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回(10月5日)	ガイダンス	教育実習の全体像と『初等教育実習の手引き』について
第2回(10月19日)	立命館小学校教育実習について I	立命館小学校関係者の講話(長谷川昭 教頭)
第3回(11月2日)	授業づくり I	指導案, 展開, 板書の理論的理解 (e黑板 基本技能含む)
第4回(11月16日)	立命館小学校教育実習について II	立命館小学校の授業観察
第5回(11月16日)	立命館小学校教育実習について III	立命館小学校の授業観察
第6回(11月30日)	授業づくり II	指導案, 展開, 板書の実践的理解(立命館小学校 川原田康文 教諭による講義)
第7回(12月17日)	教育実習について I	実習生の一日, 実習簿の書き方, 上回生との経験交流
第8回(1月11日)	教育実習について II	実習に望む心構え

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教育実習受講に際しての事前指導科目であるので、真摯で責任ある態度で臨むこと。また、日頃より新聞報道や書物講読等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席とレポート等で総合的に評価する。 3回以上の欠席は単位不認。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

第3回～第6回の立命館小学校関係の講義については、『まるごと立命館小学校メソッド！ -発見・創造、基礎基本-』（学事出版 2009）を使用する。購入手続き等は第1回講義時に指示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

10月5日のガイダンス時に、欠席・遅刻等を含め、詳細な連絡を行うので欠席のないように。
様々な連絡は、小学校教員養成課程サポートセンターを通じて行うのでメール及び掲示等には十分に注意すること。

精神保健福祉援助演習 (S)

12312

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

精神科ソーシャルワーカーの養成において重要な役割を果たすのが精神保健福祉援助演習である。精神保健福祉に関する他の科目で学んだ理論を、教員と学生の共同作業により具象化し、精神科ソーシャルワーカーの専門性(価値・倫理、知識、技術)を培う。当事者の生活と権利を護り、当事者のパートナーとして実践を展開するために必要な倫理や価値、さらに技術をディベート、グループワーク、ロールプレイ等々を活用し獲得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ① 揺れながら共に学び、共に育つ。
- ② 討論できる精神科ソーシャルワーカーとして育つ。
- ③ 生きづらさを持つ個々の精神障害者と同様の課題を持つ仲間達が、社会に参加する力を獲得するプロセスを提示できる力を獲得する。
- ④ 専門性を獲得する為に自己に求められている課題と対峙する力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健福祉実習は本科目と同時に履修しなければならない。
他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	援助演習の約束, 未熟な自己との出会い, 自己開示
2	精神障害者の生活と支援①	当事者理解 KJ法
3	精神障害者の生活と支援②	リフレーミング, ストレngthス
4	自己覚知を見つめる	自身の長所・短所, ゲーム, 他己紹介
5	支援関係形成とコミュニケーション・スキル②	バイステック7原則 循環的關係
6	支援関係形成とコミュニケーション・スキル③	言語的・非言語的コミュニケーション, ロールプレイ
7	課題の発見・分析と支援計画① -統合失調症-	当事者の語り, Strengths Perspective, ICF, QOL
8	課題の発見・分析と支援計画② -アディクション-	マッピング技法, 共依存, 家族支援
9	課題の発見・分析と支援計画③ -思春期・青年期-	家族システム, 多機関連携, 発達支援
10	課題の発見・分析と支援計画④ -うつ病と自殺-	抑うつ, うつ病, 自殺念慮, 自殺予防
11	課題の発見・分析と支援計画⑤ -社交不安障害と社会参加-	SAD, 治療と社会参加, 付随症状
12	保健所におけるソーシャルワーク事例	危機対応, 受療支援, 退院促進
13	精神科病院におけるソーシャルワーク事例	権利擁護, 家族調整, 退院促進, 住居設定
14	就労移行・就労継続とソーシャルワーク	柔らかな危機対応, 自立支援, ステイグマ
15	前期のまとめ	実習前課題
16~17	グループワーク	心理教育 統合失調症圏 思春期・青年期圏 アディクション圏
18~28	スーパービジョン	実習報告, 限界と課題, 自己の可能性
29~30	統括的まとめ	視点, 対処法, 倫理, 自己覚知

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習活動への参加、事前学習レポート、実習計画、実習報告、実習記録などを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

精神保健福祉援助実習を参考にすること。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

精神保健福祉援助実習 (S)

12425

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉援助実習は、通年の授業と180時間以上の現場実習で構成されている。現場実習は、精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として、精神障害者の伴走者となる初めての体験である。180時間という限定された時間であるが精神障害を持つ当事者や家族と直接関わるなかで、講義で学んだ理論や演習で間接的に体験した知識を活用することが求められる。その直接的な関わりのなかで、専門職としてのスキルや価値、倫理を高め、支援者として自らの課せられている課題を知ることが必要である

到達目標 / Attainment Objectives

- ①精神障害者の生活課題を理解し、地域生活支援のありかたにつき考察する力を獲得する。
- ②医療・生活の現場における専門職の実践課題と現状につき分析する力を獲得する。
- ③支援者として自らが求められている課題を明確にできる。
- ④最低限の倫理や義務につき理解し護ることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健福祉援助演習は本科目と同時に履修しなければならない。
他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	実習の意義 目的 一年間の課題
2	事前学習の内容と方法	現場が求めている実習生, 現場が求めない実習生, 実習に期待すること, KJ法
3	事前学習①-実習計画立案にあたって①-	実習先の情報収集, 実習報告からの学び
4	事前学習②-精神障害者と家族に関する文献学習-	精神科医療, 精神保健福祉, 家族間力動, 偏見
5	事前学習③-精神障害者の地域生活資源に関する文献学習	精神保健福祉法, 自立支援法
6	実習計画の立て方	目的, 意義, 目標, 課題, 評価方法
7	実習計画の発表	目的, 意義, 目標, 課題
8	実習計画の再発表	目的, 意義, 目標, 課題
9	精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践①	パートナーシップ, バウンダリー
10	精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践②	抵抗, 逆抵抗, 共感, 自己覚知
11	精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践③	マイクロカウンセリング技法
12	精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践④	バーンアウト要因
13	実践と記録	客観的描写, 自己評価, 気づき(課題発見)
14	実習生の心得	倫理, 課題, スーパービジョン
15	実習直前ガイダンス	手続き, 様々な状況への対処
16~17	実習の振り返り	当事者, 支援者, 自己, 地域
18~28	実習報告	実習概要, 学び, 成長, 今後の課題
29~30	統括的まとめ	視点, 対処法, 倫理, 自己覚知

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習活動への参加、事前学習レポート、実習計画、実習報告、実習記録などを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、演習形式の授業であり、毎回の報告が指示される。また、国家試験との関わりがある為、授業への参加(出席)日数は厳しく評価の対象とされる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神保健福祉白書(2010年版)流動化する障害福祉施策	精神保健福祉白書編集委員会 / 中央法規出版 / 978-4805832349 /
西欧精神医学背景史	中井久夫 / みすず書房 / 978-4622050469 /
こんなとき私はどうしてきたか	中井久夫 / 医学書院 / 978-4260004572 /
最終講義—分裂病私見	中井久夫 / みすず書房 / 978-4622039617 /
自殺のサインを読みとる	高橋祥友 / 講談社 / 978-4062101158 /

参考書は、適宜紹介する。本講義における事前学習時間は、平均120分となっている。ほぼ毎回、受講生からの報告(A4 2枚から3枚のレジュメ)が義務付けられるため参考書は重要な位置を占める。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

社会福祉援助技術演習Ⅲ (SA)

12632

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、社会福祉士に必要な基礎スキルの習得をめざす。コミュニケーションや専門的援助関係などすべての福祉分野に必要な基本的な知識・技能をグループ討議やロールプレイ等を通して学ぶ。また、事例を通して、福祉実践に関わる価値や理念、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。

なお、この授業では、A、B、Cの3人の教員が3クラスで各々5回ずつ授業を担当するので、クラスによって授業スケジュールが異なる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 専門的援助関係づくりのための基本スキル(コミュニケーション、原理原則の適用)の重要性がわかり、習得の意欲をもっている。
2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両方を生態学的視点に基づいて理解することの重要性が認識できている。
3. 社会福祉実践の目的、内容、方法、プロセス、課題について基礎的な理解ができている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉援助技術実習指導Ⅱは履修しておかねばならない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	専門職の価値と自己覚知	
第3回	専門的援助関係	
第4回	コミュニケーション	
第5回	面接技法	
第6回	事例(マイクロレベル)の提示、利用者についての理解	発達、生活歴、環境との相互作用、社会問題
第7回	介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
第8回	介入のプロセスと方法①	アセスメント
第9回	介入のプロセスと方法②	計画の作成と実施、モニタリング、評価
第10回	福祉実践の実際(ゲストスピーカー)	
第11回	事例(マクロレベル)の提示、地域についての理解	統計、地域特性、住民の生活実態、社会問題
第12回	介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
第13回	介入のプロセスと方法①	アセスメント
第14回	介入のプロセスと方法②	計画の策定と実施、モニタリング、評価
第15回	授業の振り返りとまとめ	自己評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術演習Ⅲ (SB)

12633

担当者名 / Instructor 黒田 学

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、社会福祉士に必要な基礎スキルの習得をめざす。コミュニケーションや専門的援助関係づくりなどすべての福祉分野に必要な基本的な知識・技能をグループ討議やロールプレイ等を通して学ぶ。また、事例を通して、福祉実践に関わる価値や理念、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。

なお、この授業では、A、B、Cの3人の教員が3クラスで各々5回ずつ授業を担当するので、クラスによって授業スケジュールが異なる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 専門的援助関係づくりのための基本スキル(コミュニケーション、原理原則の適用)の重要性がわかり、習得の意欲をもっている。
2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両方を生態学的視点に基づいて理解することの重要性が認識できている。
3. 社会福祉実践の目的、内容、方法、プロセス、課題について基礎的な理解ができている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉援助技術実習指導Ⅱは履修しておかねばならない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事例(マイクロレベル)の提示、利用者についての理解	発達、生活歴、環境との相互作用、社会問題
第3回	介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
第4回	介入のプロセスと方法①	アセスメント
第5回	介入のプロセスと方法②	計画の作成と実施、モニタリング、評価
第6回	事例(マクロレベル)の提示、地域についての理解	統計、地域特性、住民の生活実態、社会問題
第7回	介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
第8回	介入のプロセスと方法①	アセスメント
第9回	介入のプロセスと方法②	計画の策定と実施、モニタリング、評価
第10回	福祉実践の実際(ゲストスピーカー)	
第11回	専門職の価値と自己覚知	
第12回	専門的援助関係	
第13回	コミュニケーション	
第14回	面接技法	
第15回	授業の振り返りとまとめ	自己評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術演習Ⅲ (SC)

12634

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、社会福祉士に必要な基礎スキルの習得をめざす。コミュニケーションや専門的援助関係づくりなどすべての福祉分野に必要な基本的な知識・技能をグループ討議やロールプレイ等を通して学ぶ。また、事例を通して、福祉実践に関わる価値や理念、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。

なお、この授業では、A、B、Cの3人の教員が3クラスで各々5回ずつ授業を担当するので、クラスによって授業スケジュールが異なる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 専門的援助関係づくりのための基本スキル(コミュニケーション、原理原則の適用)の重要性がわかり、習得の意欲をもっている。
2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両方を生態学的視点に基づいて理解することの重要性が認識できている。
3. 社会福祉実践の目的、内容、方法、プロセス、課題について基礎的な理解ができている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉援助技術実習指導Ⅱは履修しておかねばならない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事例(マクロレベル)の提示、地域についての理解	統計、地域特性、住民の生活実態、社会問題
第3回	介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
第4回	介入のプロセスと方法①	アセスメント
第5回	介入のプロセスと方法②	計画の策定と実施、モニタリング、評価
第6回	専門職の価値と自己覚知	
第7回	専門的援助関係	
第8回	コミュニケーション	
第9回	面接技法	
第10回	福祉実践の実際(ゲストスピーカー)	
第11回	事例(ミクロレベル)の提示、利用者についての理解	発達、生活歴、環境との相互作用、社会問題
第12回	介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
第13回	介入のプロセスと方法①	アセスメント
第14回	介入のプロセスと方法②	計画の作成と実施、モニタリング、評価
第15回	授業の振り返りとまとめ	自己評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導I (SA)

12674

担当者名 / Instructor 丸山 里美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者(潜在的利用者)の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 社会福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確に述べることができる。
2. 福祉実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の現場実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、レポート、施設見学、実習先選定のプロセスと方法
第2回	支援すること・支援をうけること(体験学習)	
第3回	社会福祉実践及び社会福祉士とは	倫理綱領、自己覚知(ワークショップ)
第4回	行政機関とその福祉サービス①(福祉事務所からゲストスピーカー)	
第5回	行政機関とその福祉サービス②(振り返りとまとめ)	
第6回	地域福祉分野①(社会福祉協議会からのゲストスピーカー)	
第7回	地域福祉分野②(振り返りとまとめ)	
第8回	児童福祉分野①(児童相談所からゲストスピーカー)	
第9回	児童福祉分野②(振り返りとまとめ)	
第10回	高齢者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
第11回	障害者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
第12回	2011年度実習生による報告(児童・高齢)	
第13回	2011年度実習生による報告(障害・地域)	
第14回	実習に関連する心配・不安・気がかり等とそれらへの対処法	
第15回	振り返りと今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

高齢者施設および障害(児)者施設への見学は、事前に見学計画書を作成し担当教員の指導を受けたうえで、授業時間外にグループ単位で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、施設見学の計画書および報告、分野別レポート等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導I (SB)

12675

担当者名 / Instructor 西村 清忠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者（潜在的利用者）の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 社会福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確に述べることができる。
2. 福祉実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の現場実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、レポート、施設見学、実習先選定のプロセスと方法
第2回	支援すること・支援をうけること(体験学習)	
第3回	社会福祉実践及び社会福祉士とは	倫理綱領、自己覚知(ワークショップ)
第4回	行政機関とその福祉サービス①(福祉事務所からゲストスピーカー)	
第5回	行政機関とその福祉サービス②(振り返りとまとめ)	
第6回	地域福祉分野①(社会福祉協議会からのゲストスピーカー)	
第7回	地域福祉分野②(振り返りとまとめ)	
第8回	児童福祉分野①(児童相談所からゲストスピーカー)	
第9回	児童福祉分野②(振り返りとまとめ)	
第10回	高齢者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
第11回	障害者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
第12回	2011年度実習生による報告(児童・高齢)	
第13回	2011年度実習生による報告(障害・地域)	
第14回	実習に関連する心配・不安・気がかり等とそれらへの対処法	
第15回	振り返りと今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

高齢者施設および障害(児)者施設への見学は、事前に見学計画書を作成し担当教員の指導を受けたうえで、授業時間外にグループ単位で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、施設見学の計画書および報告、分野別レポート等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導I (SC)

12676

担当者名 / Instructor 水谷 祥子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、精神保健福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者(潜在的利用者)の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 精神保健福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確に述べることができる。
2. 福祉実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の現場実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、施設見学、実習先選定のプロセスと方法、自己覚知
第2回	精神に障害がある人を理解する	
第3回	精神保健福祉実践および精神保健福祉士の役割	倫理綱領
第4回	生活支援のための社会資源	
第5回	精神科医療機関に関する基礎的理解	
第6回	精神科医療と医療・保健・福祉サービスについて(ゲストスピーカー)	
第7回	地域生活支援施設に関する基礎的理解	
第8回	地域生活支援施設における福祉サービス(ゲストスピーカー)	
第9回	精神保健福祉実践に関する理解①援助課程	
第10回	精神保健福祉実践に関する理解②セルフヘルプグループ	
第11回	精神保健福祉分野について(施設見学の報告)	
第12回	精神保健福祉実践に関する理解③介護保険サービス	
第13回	精神保健福祉実践に関する理解④わが町の社会資源	
第14回	精神保健福祉における権利擁護	
第15回	振り返りと今後の課題、実習に関連する心配・不安・気付き等とそれらへの対処法	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

施設見学は、事前に見学計画書を作成し担当教員の指導を受けたうえで、授業時間外にグループ単位で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、レポート、小テスト等を総合的に評価する。
日常点評価は、授業への出席、演習への参加、施設見学、レポート、授業内小テスト等に基づいて行う。		
欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に参考になる文献・雑誌等については情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導II」「社会福祉援助技術演習III」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。
日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。		
欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導II」「社会福祉援助技術演習III」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。
日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。		
欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導II」「社会福祉援助技術演習III」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。
日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。		
欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導II」「社会福祉援助技術演習III」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。
日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。		
欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術演習Ⅲ」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導Ⅲ」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。
日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。		
欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

社会福祉援助技術実習指導Ⅱ (SA)

12897

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。
2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。
4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

社会福祉援助技術実習指導II (SB)

12898

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習I」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。
2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。
4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習I」と「社会福祉援助技術実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

社会福祉援助技術実習指導II (SC)

12899

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習I」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。
2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。
4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習I」と「社会福祉援助技術実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

社会福祉援助技術実習指導II (SD)

12900

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習I」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。
2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。
4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習I」と「社会福祉援助技術実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

社会福祉援助技術実習指導Ⅱ (SE)

12901

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。
2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。
4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SA)

12926

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『鞞』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。
2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。
3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べるができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習の振り返り	
第3回	実習報告とグループスーパービジョン	
第4回	実習報告とグループスーパービジョン	
第5回	実習報告とグループスーパービジョン	
第6回	実習報告とグループスーパービジョン	
第7回	実習報告会準備、課題についての学習	
第8回	実習報告会準備、課題についての学習	
第9回	実習報告会準備、課題についての学習	
第10回	実習報告書『鞞』作成準備	
第11回	実習報告会①	
第12回	実習報告会②	
第13回	実習報告会の振り返りと補足	
第14回	実習報告書『鞞』の見直し	
第15回	実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『鞞』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出遅れ1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SB)

12927

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『鞞』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。
2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。
3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べるができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習の振り返り	
第3回	実習報告とグループスーパービジョン	
第4回	実習報告とグループスーパービジョン	
第5回	実習報告とグループスーパービジョン	
第6回	実習報告とグループスーパービジョン	
第7回	実習報告会準備、課題についての学習	
第8回	実習報告会準備、課題についての学習	
第9回	実習報告会準備、課題についての学習	
第10回	実習報告書『鞞』作成準備	
第11回	実習報告会①	
第12回	実習報告会②	
第13回	実習報告会の振り返りと補足	
第14回	実習報告書『鞞』の見直し	
第15回	実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『鞞』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出遅れ1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SC)

12928

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『鞞』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。
2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。
3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べるができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習の振り返り	
第3回	実習報告とグループスーパービジョン	
第4回	実習報告とグループスーパービジョン	
第5回	実習報告とグループスーパービジョン	
第6回	実習報告とグループスーパービジョン	
第7回	実習報告会準備、課題についての学習	
第8回	実習報告会準備、課題についての学習	
第9回	実習報告会準備、課題についての学習	
第10回	実習報告書『鞞』作成準備	
第11回	実習報告会①	
第12回	実習報告会②	
第13回	実習報告会の振り返りと補足	
第14回	実習報告書『鞞』の見直し	
第15回	実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『鞞』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出遅れ1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SD)

12929

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『鞞』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。
2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。
3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べるができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習の振り返り	
第3回	実習報告とグループスーパービジョン	
第4回	実習報告とグループスーパービジョン	
第5回	実習報告とグループスーパービジョン	
第6回	実習報告とグループスーパービジョン	
第7回	実習報告会準備、課題についての学習	
第8回	実習報告会準備、課題についての学習	
第9回	実習報告会準備、課題についての学習	
第10回	実習報告書『鞞』作成準備	
第11回	実習報告会①	
第12回	実習報告会②	
第13回	実習報告会の振り返りと補足	
第14回	実習報告書『鞞』の見直し	
第15回	実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『鞞』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出遅れ1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SE)

12930

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『鞞』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。
2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。
3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べるができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習の振り返り	
第3回	実習報告とグループスーパービジョン	
第4回	実習報告とグループスーパービジョン	
第5回	実習報告とグループスーパービジョン	
第6回	実習報告とグループスーパービジョン	
第7回	実習報告会準備、課題についての学習	
第8回	実習報告会準備、課題についての学習	
第9回	実習報告会準備、課題についての学習	
第10回	実習報告書『鞞』作成準備	
第11回	実習報告会①	
第12回	実習報告会②	
第13回	実習報告会の振り返りと補足	
第14回	実習報告書『鞞』の見直し	
第15回	実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『鞞』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出遅れ1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

(教)総合演習I (GA) § (教)教職総合演習 (SA)

13272

担当者名 / Instructor 江原 武一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I(GB) § (教)教職総合演習(SB)

13273

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。

なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I(GG) § (教)教職総合演習(SG)

13274

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I (GH) § (教)教職総合演習 (SH)

13275

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I(GC) § (教)教職総合演習(SC)

14075

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I(GD) § (教)教職総合演習(SD)

14076

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I (GI) § (教)教職総合演習 (SI)

14150

担当者名 / Instructor 中西 仁

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I (GE) § (教)教職総合演習 (SE)

14278

担当者名 / Instructor 山岡 憲史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I(GF) § (教)教職総合演習(SF)

14279

担当者名 / Instructor 保坂 芳男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)介護等体験実習(Q1)

14558

担当者名 / Instructor 朝野 浩

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

介護等体験特例法に定められた要件を満たす体験実習として、本科目においては、特別支援学校2日間と社会福祉施設5日間の「介護等体験」(障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験)を行う。計7日間の体験実習を通じて、義務教育に従事する教員をめざす者として、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めていくことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

同上。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

他の教職課程科目。なお、本科目は、前年度に「(教)介護等体験の研究(1単位)」の単位を修得していなければ、受講することができない。

授業スケジュール / Course Schedule**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	「P(合格)」「F(不合格)」による評価。詳細は備考参照。

体験先での取り組み状況や「終了報告書(レポート)」等を総合的に評価する。

なお、「介護等体験証明書のコピー」および「終了報告書」を、体験終了後1週間以内に必ず提出すること。「終了報告書」の提出がなければ成績評価対象とはならないので、特に注意すること。

【提出先】衣笠:教職教育課(至徳館1階)、BKC:教職教育課(BKC)(ユニオンスクエア1階)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

本科目は、所属キャンパス・学部の別によらず、このクラス(Q1クラス)を受講登録すること。

(教)初等教育実習I (SA)

14627

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「初等教育実習 I」は、実習年度に実施される直前ガイダンス、実習校実習、事後指導から成り立っている。
必要な手続きを行い、そのすべてを履修しなければならない。

到達目標 / Attainment Objectives

- ◇教育実践に必要な知識・技能を体験的に理解・習得する。
- ◇児童・学校についての理解を深める。
- ◇教師としての資質向上に関する課題意識を育てる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教育実習 I」の受講条件となっている科目について、実習前年度までに単位を修得しておかなければならない。詳細は産業社会学部履修要項の「子ども社会専攻学生の小学校一種免許状の取得について」のページを参照のこと。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	教育実習直前ガイダンス	
2	実習校(立命館小学校)における教育実習(2週間)	
3	教育実習事後指導	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	直前ガイダンス、事後指導ならびに、実習校における成績評価等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

『初等教育実習の手引き』立命館大学産業社会学部小学校教員養成課程

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

直前ガイダンス・事後指導の内容や日程等については、後日発表するので、小学校教員養成課程サポートセンターからの連絡や掲示に十分注意すること。

(教)初等教育実習I (SB)

14628

担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「初等教育実習 I」は、実習年度に実施される直前ガイダンス、実習校実習、事後指導から成り立っている。
必要な手続きを行い、そのすべてを履修しなければならない。

到達目標 / Attainment Objectives

- ◇教育実践に必要な知識・技能を体験的に理解・習得する。
- ◇児童・学校についての理解を深める。
- ◇教師としての資質向上に関する課題意識を育てる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教育実習 I」の受講条件となっている科目について、実習前年度までに単位を修得しておかなければならない。詳細は産業社会学部履修要項の「子ども社会専攻学生の小学校一種免許状の取得について」のページを参照のこと。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	教育実習直前ガイダンス	
2	実習校(立命館小学校)における教育実習(2週間)	
3	教育実習事後指導	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	直前ガイダンス、事後指導ならびに、実習校における成績評価等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

『初等教育実習の手引き』立命館大学産業社会学部小学校教員養成課程

参考書 / Reference Books**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

直前ガイダンス・事後指導の内容や日程等については、後日発表するので、小学校教員養成課程サポートセンターからの連絡や掲示に十分注意すること。

(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)(SA)

14704

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」は、実習年度(4回生)の直前ガイダンス、実習校実習、事後指導から成り立っており、必要な手続きを行い、そのすべてに出席することが求められる。

到達目標 / Attainment Objectives**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

「(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」の受講条件となっている科目について、実習前年度までに単位を修得しておかなければならない。

授業スケジュール / Course Schedule
(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	オリエンテーション・ガイダンス、ならびに事後指導や特別授業への出席状況、実習校における成績評価等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

受講登録にあたっては、各自が受講した「初等教育実習の研究(事前指導)」と同一クラスを登録すること。

(教)初等教育実習II(事後指導を含む)(SB)

14705

担当者名 / Instructor 笹野 恵理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「(教)初等教育実習 II (事後指導を含む)」は、実習年度(4回生)の直前ガイダンス、実習校実習、事後指導から成り立っており、必要な手続きを行い、そのすべてに出席することが求められる。

到達目標 / Attainment Objectives**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

「(教)初等教育実習 II (事後指導を含む)」の受講条件となっている科目について、実習前年度までに単位を修得しておかなければならない。

授業スケジュール / Course Schedule
(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	オリエンテーション・ガイダンス、ならびに事後指導や特別授業への出席状況、実習校における成績評価等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff****その他 / Others**

受講登録にあたっては、各自が受講した「初等教育実習の研究(事前指導)」と同一クラスを登録すること。

(教)介護等体験の研究 (GA)

15798

担当者名 / Instructor 朝野 浩

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「介護等体験」は、1998(平成10)年度より施行された「介護等体験特例法」に基づき、義務教育学校(小・中学校)の教員になるための必須要件となった制度である。この制度化の位置付けは、「人の心の痛みがわかる人づくりの実現に資することを目的とする」(文部科学省)とされている。また、その社会的背景として、急速に進行している少子高齢化の現実がある。近い将来、この高齢社会を支える担い手の減少状況を見据えた時、教育(とりわけ義務教育課程)における福祉的視点と実践的態度の育成が焦点の課題であり、教員の資質として期待されている。本授業は、「介護等体験実習」の事前指導として、実習をより充実させるための理論的・実践的内容で構成する。

到達目標 / Attainment Objectives

「介護等体験」を行う場所、「特別支援学校」と「社会福祉施設」についての知識(理念・実態・課題等)を得ることにより、教職を目指すものとして、障害のある人々や高齢者・障害者・幼児児童等に対する理解を深め、「介護等体験」への意欲的姿勢を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

小学校、中学校教員免許状の取得に必要な科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回9/27火	イントロダクション(オリエンテーション): 「介護等体験」の位置付けとその意義。実施までの流れと登録手続きおよび受講クラスの確定	「2012年度体験者向け 介護等体験の手引き」(冊子) 風疹抗体検査の手続きおよび介護等体験参加申し込み(登録)
第2回10/11火	「特別支援学校」についてⅠ(講義)―「特別支援教育」の現状及び障害のある幼児児童生徒の実態と理解	障害親の変遷および自分にとっての障害とは
第3回10/25火	「特別支援学校」についてⅡ(講義)―「特別支援学校」の概要及び現状理解と「介護等体験」実施の様子	【中間レポート】「3つのキーワードおよび障害について思うこと」
第4回11/8火	「社会福祉施設」についてⅠ(講義)―高齢者福祉施設の現状と課題	施設長等による外部講師の講義
第5回11/22火	「社会福祉施設」についてⅡ(講義)―障害者福祉施設の現状と課題	施設長等による外部講師の講義
第6回12/6火	介護等体験実施に向けての自己理解(先輩の体験談等を聞いてグループ・ワーク等)	座席指定・グループ編成
第7回12/20火	「介護等体験」参加するに当たっての心構えとまとめ(講義・先輩の体験談等) 【★出席必須 ◎終了レポート提出―当日課題提示】	「介護等体験の手引き」「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」「講義配布資料」座席指定・グループ編成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特別支援学校インターンシップおよび障害児サークル・ボランティアに積極的に参加

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	◎「介護等体験」は教職を目指す者としての最初の就職活動として取り組む心構えが必要である。その意義をよく理解し、熱意を持って授業に臨めたかどうかを最大の評価基準とする。原則として、全出席を最重要視する。 ◎特に、最終日(7回目)の出席及びレポート提出は必須である。 ◎評価方法は下記「備考欄」の内容を踏まえて「P/F評価」とする。 ◎公欠事由: ①出席停止(感染症)に該当する病気 ②忌引き(2親等以内の血族・姻族) ③災害 ④交通機関の延着 ⑤教育実習等(4回生以上、大学で確認)

【出席要件】

- ・5回以上の出席及び最終日の出席と「最終レポート」の提出をもって「P」評価とする。最終日の欠席は、5回以上出席していても「F」評価となるので、要注意である。そのため原則としてすべての授業への出席が必須となる。毎回、出席カード等(コミュニケーションカード)を持って出席確認を行う。
- ・事前届出の有無を問わず、3回以上欠席した場合は「F評価」とする。ただし、公欠事由を除く。
- ・また、「遅刻」「QRコード票無添付」「私語」についても厳しく評価を行なう。QRコード票についても、2回添付忘れの場合には、別途レポート課題を課し、提出をもって評価対象とする。
- ・20分超える「遅刻」の場合についても、欠席扱いとする。

・「私語」「携帯電話」「飲食」などについても厳しく評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小学校・中学校教員免許取得のために義務付けられている科目であるが、教職を目指す者として、今日の社会的課題である「ノーマライゼーション理念の具現化」に向けた実践的経験の場として自らの人権感覚を磨き、常識ある行動をとれるよう、積極的な姿勢を望む。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しないが、「介護等体験の手引き」(改訂版)を参考に使う。
また、2回目以降、適宜資料配付を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

発達障害白書2010版2011版 社団法人日本発達障害福祉連盟 / 日本文化科学社 //

特別支援教育基本用語100 上野一彦他 / 明治図書 //

「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」「手引き冊子」は、授業時において別途配布する(介護等体験履修料@3000-に中に含む)。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で学ぶ内容をより深めるために、各特別支援学校ホーム・ページや児童福祉施・障害者福祉・高齢者福祉などの関連したページを検索し参照することを勧める。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

※教職支援センター、教職教育課の担当者と綿密な連絡を取ること。

その他 / Others

出席管理には「QRコード・シール」を使用する。

受講生は必ず毎回「QRコード・シール」を持参すること。

2回忘れた場合には別途レポート改題を課し評価対象とする。

(教)介護等体験の研究 (GB)

15799

担当者名 / Instructor 朝野 浩

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「介護等体験」は、1998(平成10)年度より施行された「介護等体験特例法」に基づき、義務教育学校(小・中学校)の教員になるための必須要件となった制度である。この制度化の位置付けは、「人の心の痛みがわかる人づくりの実現に資することを目的とする」(文部科学省)とされている。また、その社会的背景として、急速に進行している少子高齢化の現実がある。近い将来、この高齢社会を支える担い手の減少状況を見据えた時、教育(とりわけ義務教育課程)における福祉的視点と実践的態度の育成が焦点の課題であり、教員の資質として期待されている。本授業は、「介護等体験実習」の事前指導として、実習をより充実させるための理論的・実践的内容で構成する。

到達目標 / Attainment Objectives

「介護等体験」を行う場所、「特別支援学校」と「社会福祉施設」についての知識(理念・実態・課題等)を得ることにより、教職を目指すものとして、障害のある人々や高齢者・障害者・幼児児童等に対する理解を深め、「介護等体験」への意欲的姿勢を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

小学校、中学校教員免許状の取得に必要な科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回9/28水	イントロダクション(オリエンテーション): 「介護等体験」の位置付けとその意義。実施までの流れと登録手続きおよび受講クラスの確定	「2012年度体験者向け 介護等体験の手引き」(冊子) 風疹抗体検査の手続きおよび介護等体験参加申し込み(登録)
第2回10/12水	「特別支援学校」についてⅠ(講義)―「特別支援教育」の現状及び障害のある幼児児童生徒の実態と理解	障害親の変遷および自分にとっての障害とは
第3回10/26水	「特別支援学校」についてⅡ(講義)―「特別支援学校」の概要及び現状理解と「介護等体験」実施の様子	【中間レポート】「3つのキーワードおよび障害について思うこと」
第4回11/9水	「社会福祉施設」についてⅠ(講義)―高齢者福祉施設の現状と課題	施設長等による外部講師の講義
第5回11/23水	「社会福祉施設」についてⅡ(講義)―障害者福祉施設の現状と課題	施設長等による外部講師の講義
第6回12/7水	介護等体験実施に向けての自己理解(先輩の体験談等を聞いてグループ・ワーク等)	座席指定・グループ編成
第7回12/21水	「介護等体験」参加するに当たっての心構えとまとめ(講義・先輩の体験談等) 【★出席必須 ◎終了レポート提出―当日課題提示】	「介護等体験の手引き」「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」「講義配布資料」座席指定・グループ編成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

小学校・中学校教員免許取得のために義務付けられている科目であるが、教職を目指す者として、今日の社会的課題である「ノーマライゼーション理念の具現化」に向けた実践的経験の場として自らの人権感覚を磨き、常識ある行動をとれるよう、積極的な姿勢を望む。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	◎「介護等体験」は教職を目指す者としての最初の就職活動として取り組む心構えが必要である。その意義をよく理解し、熱意を持って授業に臨めたかどうかを最大の評価基準とする。原則として、全出席を最重要視する。 ◎特に、最終日(7回目)の出席及びレポート提出は必須である。 ◎評価方法は下記「備考欄」の内容を踏まえて「P/F評価」とする。 ◎公欠事由: ①出席停止(感染症)に該当する病気 ②忌引き(2親等以内の血族・姻族) ③災害 ④交通機関の延着 ⑤教育実習等(4回生以上、大学で確認)

【出席要件】

- ・5回以上の出席及び最終日の出席と「最終レポート」の提出をもって「P」評価とする。最終日の欠席は、5回以上出席していても「F」評価となるので、要注意する。そのため原則としてすべての授業への出席が必須となる。毎回、出席カード等(コミュニケーションカード)を持って出席確認を行う。
- ・事前届出の有無を問わず、3回以上欠席した場合は「F評価」とする。ただし、公欠事由を除く。
- ・また、「遅刻」「QRコード票無添付」「私語」についても厳しく評価を行なう。

QRコード票についても、2回添付忘れの場合には、別途レポート課題を課し、提出をもって評価対象とする。
 ・20分超える「遅刻」の場合についても、欠席扱いとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小学校・中学校教員免許取得のために義務付けられている科目であるが、教職を目指す者として、今日の社会的課題である「ノーマライゼーション理念の具現化」に向けた実践的経験の場として自らの人権感覚を磨き、常識ある行動をとれるよう、積極的な姿勢を望む。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しないが、「介護等体験の手引き」(改訂版)を参考に使う。
 また、2回目以降、適宜資料配付を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発達障害白書2010版2011版	社団法人日本発達障害福祉連盟 / 日本文化科学社 / /
特別支援教育基本用語100	上野一彦他 / 明治図書 / /

「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」「手引き冊子」は、授業時において別途配布する(介護等体験履修料@3000-に中に含む)。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で学ぶ内容をより深めるために、各特別支援学校ホーム・ページや児童福祉施・障害者福祉・高齢者福祉などの関連したページを検索し参照することを勧める。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

※教職支援センター、教職教育課の担当者と綿密な連絡を取ること。

その他 / Others

出席管理には「QRコード・シール」を使用する。

受講生は必ず毎回「QRコード・シール」を持参すること。

2回忘れた場合には別途レポート改題を課し評価対象とする。

(教) 介護等体験の研究 (GC)

15804

担当者名 / Instructor 朝野 浩

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「介護等体験」は、1998(平成10)年度より施行された「介護等体験特例法」に基づき、義務教育学校(小・中学校)の教員になるための必須要件となった制度である。この制度化の位置付けは、「人の心の痛みがわかる人づくりの実現に資することを目的とする」(文部科学省)とされている。また、その社会的背景として、急速に進行している少子高齢化の現実がある。近い将来、この高齢社会を支える担い手の減少状況を見据えた時、教育(とりわけ義務教育課程)における福祉的視点と実践的態度の育成が焦点の課題であり、教員の資質として期待されている。本授業は、「介護等体験実習」の事前指導として、実習をより充実させるための理論的・実践的内容で構成する。

到達目標 / Attainment Objectives

「介護等体験」を行う場所、「特別支援学校」と「社会福祉施設」についての知識(理念・実態・課題等)を得ることにより、教職を目指すものとして、障害のある人々や高齢者・障害者・幼児児童等に対する理解を深め、「介護等体験」への意欲的姿勢を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

小学校、中学校教員免許状の取得に必要な科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回9/28水	イントロダクション(オリエンテーション): 「介護等体験」の位置付けとその意義。実施までの流れと登録手続きおよび受講クラスの確定	「2012年度体験者向け 介護等体験の手引き」(冊子) 風疹抗体検査の手続きおよび介護等体験参加申し込み(登録)
第2回10/12水	「特別支援学校」についてⅠ(講義)―「特別支援教育」の現状及び障害のある幼児児童生徒の実態と理解	障害親の変遷および自分にとっての障害とは
第3回10/26水	「特別支援学校」についてⅡ(講義)―「特別支援学校」の概要及び現状理解と「介護等体験」実施の様子	【中間レポート】「3つのキーワードおよび障害について思うこと」
第4回11/9水	「社会福祉施設」についてⅠ(講義)―高齢者福祉施設の現状と課題	施設長等による外部講師の講義
第5回11/23水	「社会福祉施設」についてⅡ(講義)―障害者福祉施設の現状と課題	施設長等による外部講師の講義
第6回12/7水	介護等体験実施に向けての自己理解(先輩の体験談等を聞いてグループ・ワーク等)	座席指定・グループ編成
第7回12/21水	「介護等体験」参加するに当たっての心構えとまとめ(講義・先輩の体験談等) 【★出席必須 ◎終了レポート提出一日課題提示】	「介護等体験の手引き」「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」講義配布資料」座席指定・グループ編成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特別支援学校インターンシップおよび障害児サークル・ボランティアに積極的に参加

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	◎「介護等体験」は教職を目指す者としての最初の就職活動として取り組む心構えが必要である。その意義をよく理解し、熱意を持って授業に臨めたかどうかを最大の評価基準とする。原則として、全出席を最重要視する。 ◎特に、最終日(7回目)の出席及びレポート提出は必須である。 ◎評価方法は下記「備考欄」の内容を踏まえて「P/F評価」とする。 ◎公欠事由: ①出席停止(感染症)に該当する病気 ②忌引き(2親等以内の血族・姻族) ③災害 ④交通機関の延着 ⑤教育実習等(4年生以上、大学で確認)

【出席要件】

- ・5回以上の出席及び最終日の出席と「最終レポート」の提出をもって「P」評価とする。最終日の欠席は、5回以上の出席をしていても「F」評価となるので要注意すること。そのため原則としてすべての授業への出席が必須となる。毎回、出席カード等(コミュニケーションカード)を持って出席確認を行う。
- ・事前届出の有無を問わず、3回以上欠席した場合は「F評価」とする。ただし、公欠事由を除く。
- ・また、「遅刻」「QRコード票無添付」「私語」についても厳しく指導・評価を行なう。QRコード票についても、2回添付忘れの場合には、別途レポート課題を課し、提出をもって評価対象とする。
- ・20分超える「遅刻」の場合については、欠席扱いとする。
- ・「私語」「携帯電話」「飲食」などについても厳しく評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小学校・中学校教員免許取得のために義務付けられている科目であるが、教職を目指す者として、今日の社会的課題である「ノーマライゼーション理念の具現化」に向けた実践的経験の場として自らの人権感覚を磨き、常識ある行動をとれるよう、積極的な姿勢を望む。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しないが、「介護等体験の手引き」(改訂版)を参考に使う。

また、2回目以降、適宜資料配付を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
達障害白書2010版2011版	日本発達障害福祉連盟 / 日本文化科学社 / /
特別支援教育基本用語100	上野一彦他 / 明治図書 / /

「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」「手引き冊子」は、授業時において別途配布する(介護等体験履修料@3000-に中に含む)。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で学ぶ内容をより深めるために、各特別支援学校ホーム・ページや児童福祉施・障害者福祉・高齢者福祉などの関連したページを検索し参照することを勧める。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーションペーパー / Communication Paper

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

※教職支援センター及び教職教育課の担当者と綿密な連絡を取ること。

その他 / Others

出席管理には「QRコード・シール」を使用する。

受講生は必ず毎回「QRコード・シール」を持参すること。

2回忘れた場合には別途レポート改題を課し評価対象とする。

(教)総合演習I(GQ) § (教)教職総合演習(SQ)

16277

担当者名 / Instructor 早川 幸生

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I(GJ) § (教)教職総合演習(SJ)

16477

担当者名 / Instructor 朝野 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I(GK) § (教)教職総合演習(SK)

16478

担当者名 / Instructor 森田 真樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I (GL) § (教)教職総合演習 (SL)

16479

担当者名 / Instructor 磯崎 三郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	
出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

(教)総合演習I(GM) § (教)教職総合演習(SM)

16480

担当者名 / Instructor 大島 明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I (GN) § (教)教職総合演習 (SN)

16481

担当者名 / Instructor 沖 裕貴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I(GO) § (教)教職総合演習(SO)

16482

担当者名 / Instructor 小泉 良一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method**

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

(教)総合演習I(GP) § (教)教職総合演習(SP)

16488

担当者名 / Instructor 三軒 久枝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、人類共通の課題や我が国の社会全体にかかわる課題について、学校での実践への応用可能性を念頭におきながら、多角的・複眼的に検討する。ディスカッションやフィールドワーク等を含む演習形式の授業を行うことによって、自ら課題を設定し、解決にむけて積極的、継続的に取り組む姿勢を培い、次世代を担う教員として必要な基礎的資質および実践的能力の修得をめざす。
なお、本授業は、半期セメスターでの2単位授業(15回授業)として実施する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①教員として必要な基礎的資質を養う。
- ②プレゼンテーションやフィールドワーク、コミュニケーションなどの技術・能力を養う。
- ③教育や学校に限定されない、幅広い見識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教職に関する科目」「教科に関する科目」の各分野の科目について、本科目との並行履修も含め、計画的に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	本授業では、たとえば国際理解、平和に関する課題、人口問題、食糧問題、環境問題、	少子・高齢化社会における社会福祉や人権問題および地域社会や家庭のあり方をめぐる問題、
	等々のうちから、いくつかのテーマを取り上げ、文献研究、フィールドワーク、グループ研究、	ディスカッション等を組み入れながら、テーマ理解をいっそう深めていくとともに、
	教師としての力量を形成していく。また、これらのテーマについて生徒に教授できる	実践的能力の修得をもめざす。詳細な授業の流れや実際の授業の方法については、
	開講時に各クラス担当者から説明する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

出席状況や発表・討論への参加、授業内レポート等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職課程におけるゼミナールに相当する科目であり、また教員免許状取得のための必修科目でもあるので、積極的で責任ある参加を求める。

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業の中で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff**その他 / Others**

社会福祉援助技術実習指導I (SD)

20184

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者(潜在的利用者)の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 社会福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確に述べることができる。
2. 福祉実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の現場実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、レポート、施設見学、実習先選定のプロセスと方法
第2回	支援すること・支援をうけること(体験学習)	
第3回	社会福祉実践及び社会福祉士とは	倫理綱領、自己覚知(ワークショップ)
第4回	行政機関とその福祉サービス①(福祉事務所からゲストスピーカー)	
第5回	行政機関とその福祉サービス②(振り返りとまとめ)	
第6回	地域福祉分野①(社会福祉協議会からのゲストスピーカー)	
第7回	地域福祉分野②(振り返りとまとめ)	
第8回	児童福祉分野①(児童相談所からゲストスピーカー)	
第9回	児童福祉分野②(振り返りとまとめ)	
第10回	高齢者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
第11回	障害者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
第12回	2011年度実習生による報告(児童・高齢)	
第13回	2011年度実習生による報告(障害・地域)	
第14回	実習に関連する心配・不安・気がかり等とそれらへの対処法	
第15回	振り返りと今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

高齢者施設および障害(児)者施設への見学は、事前に見学計画書を作成し担当教員の指導を受けたうえで、授業時間外にグループ単位で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、施設見学の計画書および報告、分野別レポート等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 (SB)

20325

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習III」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神保健福祉現場実習 (S)

20326

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

事前・事後の精神保健福祉援助実習(s)の一環として保健・医療施設および社会復帰施設等福祉施設での現場実習を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

- ①精神保健福祉士として必要な知識について理解を深めると共に、相談援助その他の技術を習得する。
- ②実習での具体的な体験等を、専門的援助技術として概念化、理論化し、体系立てていくことができる能力を育てる。
- ③職業倫理を身につけ、専門職としての自覚を育てる。
- ④関連分野の専門職種との連携のあり方について理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	次のものを判定の材料とする。 ①現場実習指導者の実習評価 ②現場実習参加状況 ③現場実習時の実習記録, 各自が自主的に記載したメモ

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

現場実習である為、緊急時の連絡等は実習指導室で指導する。

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 (SA)

20327

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習III」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 (SC)

20328

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習III」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 (SD)

20329

担当者名 / Instructor 黒田 学

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習III」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 (SE)

20330

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習III」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

担当者名 / Instructor 東 自由里

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Instructor: Julie Higashi (Professor, Faculty of Social Sciences)

What do social entrepreneurs do, and why are they becoming more active than ever today around the world? Ordinary people are taking actions to solve the social problems where governments and bureaucracies have failed. They have founded nonprofit organizations to support their activities that can help the weakest, the poorest, and the ignored population. We will read about the characteristics of social entrepreneurs; watch a short clip of specific cases (DVD, 10min. each); and discuss about the topic throughout the course.

到達目標 / Attainment Objectives

We will explore how social entrepreneurs find ways that lead to solutions. By the end of the course, students are expected to analyze the differences and similarities between social entrepreneurship and other forms of entrepreneurship (business).

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This course is conducted *entirely in English* and is open to advanced undergraduate students, and is not part of the English-fukusenkeno program. All required language courses should be completed before taking this course. Your participation is a must to make this course successful. Please come to class well prepared with your reading assignment *completed* beforehand.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction: What is social entrepreneurship?	Explanation of Attainment Objectives, Procedures and Grading Methods
2	reading: Restless People	
3	reading: The Role of the Social Entrepreneur (1)	
4	India: Train platform schools (DVD 15min.)	NPO: South Asian Coalition on Child Servitude
5	New York: Homelessness and Housing	NPO: The Common Ground (DVD 10min)
6	Thailand: Education for Girls (DVD) 15min	Prostitution and Child/Women Trafficking
7	reading: The Role of the Social Entrepreneur (2)	Review and In-Class Test No. 1 (20%)
8	Bangladesh: The banker to the poor (DVD 15 min.)	
9	Mini research on Grameen Bank, Micro Credit	
10	Reading and Discussion: "Poverty is a threat to Peace" (1)	
11	Reading and Discussion "Poverty is a threat to Peace" (2)	
12	Reading and Discussion: Six Qualities of Successful Social Entrepreneurs	
13	Individual Presentation (20%)	
14	Reading and Discussion: The Emergence of the Citizen Sector	
15	In-Class Verification Exam (20%) Final Verification of Attainment Levels and post-exam lecture	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	In-Class Verification Test 1 (20%) In-Class Verification Text 2 (20%) Participation(40%), Presentation(20%)

Graduate Students need to write a paper in addition to doing a presentation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

How to Change the World: Social Entrepreneurs and the Power of New Ideas David Bornstein / Oxford Uni. Press / 978-0-19-533476-0 / paper back edition (2007)

We will be watching short visual clips (programs) in class so your attendance is a must.

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Useful web sites: <http://www.pbs.org/opb/thenewheroes/>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

Office hours and contact email address will be written on your syllabus distributed on the first day of class

その他 / Others

担当者名 / Instructor 東 自由里

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

Instructor: Julie Higashi (Professor, Faculty of Social Sciences)

What do social entrepreneurs do, and why are they becoming more active than ever today around the world? Ordinary people are taking actions to solve the social problems where governments and bureaucracies have failed. They have founded nonprofit organizations to support their activities that can help the weakest, the poorest, and the ignored population. We will read about the characteristics of social entrepreneurs; watch a short clip of specific cases (DVD, 10min. each); and discuss about the topic throughout the course.

到達目標 / Attainment Objectives

We will explore how social entrepreneurs find ways that lead to solutions. By the end of the course, students are expected to analyze the differences and similarities between social entrepreneurship and other forms of entrepreneurship (business).

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This course is conducted *entirely in English* and is open to advanced undergraduate students, and is not part of the English-fukusenken program. All required language courses should be completed before taking this course. Your participation is a must to make this course successful. Please come to class well prepared with your reading assignment *completed* beforehand.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Introduction: What is social entrepreneurship?	Explanation of Attainment Objectives, Procedures and Grading Methods
2	reading: Restless People	
3	reading: The Role of the Social Entrepreneur (1)	
4	India: Train platform schools (DVD 15min.)	NPO: South Asian Coalition on Child Servitude
5	New York: Homelessness and Housing	NPO: The Common Ground (DVD 10min)
6	Thailand: Education for Girls (DVD) 15min	Prostitution and Child/Women Trafficking
7	reading: The Role of the Social Entrepreneur (2)	Review and In-Class Test No. 1 (20%)
8	Bangladesh: The banker to the poor (DVD 15 min.)	
9	Mini research on Grameen Bank, Micro Credit	
10	Reading and Discussion: "Poverty is a threat to Peace" (1)	
11	Reading and Discussion "Poverty is a threat to Peace" (2)	
12	Reading and Discussion: Six Qualities of Successful Social Entrepreneurs	
13	Individual Presentation (20%)	
14	Reading and Discussion: The Emergence of the Citizen Sector	
15	In-Class Verification Exam (20%) Final Verification of Attainment Levels and post-exam lecture	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	In-Class Verification Test 1 (20%) In-Class Verification Text 2 (20%) Participation(40%), Presentation(20%)

Graduate Students need to write a paper in addition to doing a presentation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

How to Change the World: Social Entrepreneurs and the Power of New Ideas David Bornstein / Oxford Uni. Press / 978-0-19-533476-0 / paper back edition (2007)

We will be watching short visual clips (programs) in class so your attendance is a must.

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Useful web sites: <http://www.pbs.org/opb/thenewheroes/>

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Other

Office hours and contact email address will be written on your syllabus distributed on the first day of class

その他 / Others

担当者名 / Instructor 佐々木 嬉代三

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

昨年まで数年U.ベックのリスク社会論を取上げてきたが、今年は三上剛史の『社会の思考—リスクと監視と個人化—』をテキストとして授業を進めたい。本書は140頁程度の小冊子なので、テキストとして使うのに手頃だと考えている。参加学生は章別分担報告を行うものとする。本書末尾に詳しい参考文献が記されているので、それらを参考にしつつ内容豊かな報告要旨を作成して欲しい。授業の中でも適宜参考文献を示すこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

現代社会に関わる社会学的思考のあり様を学び、現実の社会の問題を考える力を鍛えること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	自己紹介、授業の進め方の確認、章別分担体制の確立	
2	序章: <個人と社会>再考	社会的なるもの、個人的なるもの
3	第1章: 社会の“終焉”	モダンとポストモダン
4	第2章: 個人化する社会	再帰的近代、第2の個人化
5	第3章: リスクと連帯	リスクの個人化、不安による連帯
6	第4章: 分割できない社会	道徳的実在としての社会、連帯の喪失
7	第5章: 監視社会	パノプティコン、シノプティコン
8	第6章: 生権力と統治性	規律訓練、人口管理
9	第7章: 個人の意識と社会のシステム	「人間」の終焉、「社会」の分断
10	第8章: “行為者とシステムは別れた”	自律化した「社会」と「個人」
11	第9章: 「と」の論理	切ることと結ぶこと、分離と結合
12	第10章: 社会の個人	人格の聖性、脱人格化された社会
13	残された事ども: 絆—連帯—道徳	「病理」を見つめる眼、「悪の凡庸さ」
14	残された事ども: 公共性	私と公、情念と理性、その交響は可能か
15	レポート試験	現代社会学研究を通して学んだこと

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	内容の面白さ、論理の明快さ
平常点評価	60 %	取り組み方の熱意、とりわけ分担報告への努力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会の思考—リスクと監視と個人化—	三上剛史 / 学文社 / 4-7620-2061-2 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
危険社会	ウルリヒ・ベック / 法政大学出版局 / 4-588-00609-6 /
個人化社会	ジグムント・バウマン / 青弓社 / 4-7872-3288-5 /
人間の条件	ハンナ・アレント / ちくま学芸文庫 / 4-480-08156-9 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

飲んで、語ろう！

その他 / Others

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

文献購読と個人によるテーマ研究(ケーススタディ)によって、ICT、ネットワーク社会、サイバー社会などと言われる構造を理解し、その中でプライバシー、表現の自由、通信の秘密などが直面する問題を理解し、解決策を模索する。

到達目標 / Attainment Objectives

- 1)通信と放送の融合、ブロードバンドの発展などが進むICT化・サイバー社会の功罪についてビジネス的側面、社会制度的側面から理解する。
- 2)テクノロジーの発達と表現・通信の自由がどのような関係にあるのか構造を理解する。
- 3)デジタル時代の著作権の現状を理解し、そのあるべき姿を探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入のはなし	
第2回	文献購読と討論①	
第3回	文献購読と討論②	
第4回	文献購読と討論③	
第5回	文献購読と討論④(個人研究企画書課題発表)	
第6回	文献購読と討論⑤(個人研究企画書検討①)	
第7回	文献購読と討論⑥(個人研究企画書検討②)	
第8回	文献購読と討論⑦(個人研究企画書検討③)	
第9回	文献購読と討論⑧(個人研究企画書締切)	
第10回	文献購読と討論⑨	
第11回	個人テーマ発表と討論①	
第12回	個人テーマ発表と討論②	
第13回	個人テーマ発表と討論③	
第14回	個人テーマ発表と討論④	
第15回	まとめの議論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<ul style="list-style-type: none"> ・個人テーマ研究レポート: 40% 内容をクラスで発表し、討論の内容を踏まえて最終レポートとして提出する。 ・クラス内発表: 40% ・文献購読発表と個人テーマ研究発表 討論への参加: 20%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・テクノロジー関連のニュースを注意してフォローすること。
- ・iPhoneなどの新しいガジェット、Twitterや他のSNSなども使ってみて親しんでおくことが望ましい。
- ・2ちゃんねるを熱心に閲覧してもあまり意味がない。

教科書 / Textbooks

クラス内で指示する。

参考書 / Reference Books

クラス内で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

e-mail

その他 / Others

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会の諸問題とそれへの対応は、領域ごとに別個のもののようにみえるかもしれない。また、社会福祉学には幅広い領域があり、研究のアプローチや方法もさまざまである。しかし、実際には、いろんな事柄が相互に関連し影響しあっている。社会福祉の研究や実践では、それらを見きわめるための目と知識、研究・実践のためのスキルが必要である。この授業では、教科書を通してそのような領域を超えて必要な共通基盤の習得するとともに、その内容を受講生が自分の研究テーマにどのように活かせるかを検討する場とする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会福祉とは何か、福祉的な見方とはどのようなものか、説明できる。
- ・各自の研究テーマについて、ミクロ・メゾ・マクロのそれぞれのレベルでの課題と、レベル間の関わりについて説明できる。
- ・各自の研究テーマと資源・状況に適した研究方法を選ぶことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業内容の紹介、テキストの分担箇所・発表のスケジュール決定
2, 3	権利擁護	人権、法、歴史、価値倫理、権利擁護
4, 5	生活構造	生活をとらえる視点、問題の捉え方、自立支援、社会保障
6, 7	相談援助	対人援助の視点、ソーシャルワークの機能、援助の展開、技法
8, 9	地域支援	制度、政策、計画、社会資源、ネットワーク
10, 11	福祉経営	組織、経営、法人、サービス評価
12, 13, 14	福祉研究	文献研究、社会調査、実践研究(フィールド調査、介入研究)
15	授業の振り返りと今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組(演習・発表)50% レポート50%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新社会福祉援助の共通基盤 上[第2版] 上[第2版]	社団法人日本社会福祉士会(編) / 中央法規 / 978-4-8058-3126-7 /
新社会福祉援助の共通基盤 下[第2版]	社団法人日本社会福祉士会(編) / 中央法規 / 978-4-8058-3127-4 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

- コミュニケーションペーパー / Communication Paper
- 学生との直接対話 / Talk with Students

その他 / Others

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

古典および現代の社会学理論について解説したテキストを一通り学んだ後に、特定の理論を重点的にとりあげてより詳しく解説する。対象とする理論は参加者の意向を考慮して選択するが、デュルケームやヴェーバー、ミード、パーソンズ、ゴフマン、ブルデュー、コールマン、ルーマンなどの理論を一応予定している。

到達目標 / Attainment Objectives

代表的な社会学理論の考え方を理解し、的確に説明できる。
理論を自らの研究テーマに活用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

できれば学部の社会学理論・社会学史

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学理論の学び方	社会学理論のタイプ・社会学の科学としての特徴
第2回	デュルケームの理論: テキスト解説	実証主義・共変法
第3回	ヴェーバーの理論: テキスト解説	理解社会学・理念型
第4回	パーソンズの理論: テキスト解説	システム・機能分析
第5回	ミード: テキスト解説	自我・社会性
第6回	ゴフマンの理論: テキスト解説	相互作用儀礼・フレーム
第7回	ブルデューの理論: テキスト解説	場の理論・差異
第8回	コールマンの理論: テキスト解説	合理的選択・マクロ-ミクロ連結
第9回	フーコーの理論: テキスト解説	知の考古学・統治論
第10回	ブルーマーの方法: テキスト解説	相互作用・創発性・状況の定義
第11回	実証主義の可能性と限界	計量的研究を支えている論理・前提
第12回	解釈学の可能性と問題点	意味の重要性・解釈の妥当性の問題
第13回	ラディカルな構成主義は革新か?	科学主義との決別・構成主義の事例
第14回	社会的世界論の展開	シカゴ学派の可能性・客観性と主観性の止揚
第15回	理論の総括	理論活用の方法・ポストモダンへの反論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業で指示する文献はできるだけ目を通すこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	特定の理論を選択してレポートを提出してもらいが、その内容がどれだけ理論をよく理解し、また活用するレベルに達しているのか。
平常点評価	50 %	授業での質問・発表などの貢献度。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会学史をあまり難しく考えずに、自分研究の理論的視点として活用してほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
クロニクル社会学	那須 壽編 / 有斐閣 / 4-641-12041 /
新しい社会学のあゆみ	新睦人編 / 有斐閣 / 4-647-12302-0 /

参考書 / Reference Books

参考書は授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

担当者名 / Instructor 崎山 治男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会学的な物の見方とは、どのようなものか? 「社会学的」という表現をしばしば耳にするが、その答えは定かではない。それは第1には、これまでの社会学の歴史の中でも様々な見解の対立があったことがある。また第2には、近年の学問的状况の中での社会学の研究対象の多様化にもよる。このような背景から、本講義は「社会学とは何か?」という基本的な問いに、社会学史の立場から取り組んでいくことをめざす。社会学の基本的な発想法や思考法を学びたい、幅広い専門分野をもつ学生・院生の受講を期待する。15回の講義のなかで「社会を社会学的に見る方法」について体系的な知識の獲得を目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会学説史に即して、「社会学的」な問いの立て方を身につける。
- ・「ミクロ」対「マクロ」、「主体」対「構造」等の、社会学理論の基礎的な対立軸を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

- ・社会学史、基礎社会学などを取っていること(あるいは平行して取る)ことが望ましい。ただ、義務ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	近代社会の登場と社会学	「社会的」なるものの登場と実証主義
3	社会実証主義と方法論的集合主義	社会を「モノ」として捉える欲望
4	近代社会の病理と連帯	時代診断の学としての社会学
5	方法論的個人主義と理解社会学	他者を「知る」ことの(不)可能性
6	近代社会のエートスと行為論的視座	近代を生み出す倫理・近代が生み出す倫理
7	主意主義的行為理論と目的論的機能主義	行為と機能の関連を目指して
8	社会の体系論的—システム論的分析	社会の「総体」を把握する欲望
9	因果的機能分析と中範囲の理論	社会学が「社会学」出来る範囲とは
10	社会の意味論的分析	「私」と「他者」との並立可能性
11	社会的過程と自己	意味を生み出し続ける社会
12	リアリティのミクロ社会学(1)	私たちが作る社会
13	リアリティのミクロ社会学(2)	演技としての行為・社会
14	社会構築主義の功罪	「構築」と「正義」のはざま
15	構造—機能主義と再帰的自己	モダニティとアイデンティティ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Methods

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	社会学の持つ「構え」を習得しているか。ある思想と、その前後、時代背景とのつながりを理解出来ているかで評価する。
平常点評価	30 %	講義中に課す課題や、コミュニケーション・ペーパーの提出状況など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・社会学理論の「見かけ」の難しさに惑わされないこと。
- ・「社会」の理論である限り、必ず身近に応用出来るものであることを意識すること。
- ・「分かる」まで説明するので、コミュニケーションペーパーなどで随時質問すること。

教科書 / Textbooks

特になし。毎回レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

特になし。毎回のレジュメで各回の内容に関する参考文献を指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

社会学、経済学、政治学などのディシプリンの中での研究がますます細分化するに応じて、少なくともそれらを概観する観点もまた求められる。現代という時代が歴史的経過の堆積であるのと同じように、現代という時代についての問題意識もまた、社会科学の総合的な経過の上で成立している。社会科学を総合的に考える場合、日本の社会科学が輸入学問として始まり、今でも欧米の研究を学ぶことに依存しているという事情を無視することはできない。この授業では、私たちにあって避けることのできない「日本」という状況と社会科学との関係を学びたい。

具体的には、以下の文献を、精読・要約・解説しながら進める。

丸山真男『日本の思想』岩波新書、1961年。

(副読本、ハリー・ハルトゥーニアン『近代による超克 戦間期日本の歴史・文化・共同体 上』(梅森直之訳)岩波書店、2007年。)

到達目標 / Attainment Objectives

「社会の科学的研究」の共通の基礎となる研究史と論点を学び、論文作成の前提となる広い視野を形成すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「日本の思想」入門	テキストの紹介、授業の進め方
2	第3章 思想のあり方について1	イメージと現実、ササラ型とタコツボ型
3	第3章 思想のあり方について2	国内的鎖国と国際的開国
4	第1章 日本の思想 まえがき	「伝統」と「外来」、「開国」の意味
5	第1章 日本の思想 第一節	無構造の「伝統」、逆説や反語の機能転換
6	第1章 日本の思想 第二節	「国体」の創出
7	第1章 日本の思想 第三節	無責任の体系、共同体的心情
8	日本の思想 第四節	二つの思考様式の対立
9	前半まとめ	補足、質問など
10	第4章 「である」ことと「する」こと1	「である」社会と「する」組織
11	第4章 「である」ことと「する」こと2	「する」価値と「である」価値
12	『近代による超克』第1章 モダンライフという幻想1	「文化生活」
13	『近代による超克』第1章 モダンライフという幻想2	「街頭生活」
14	『近代による超克』第1章 モダンライフという幻想3	「消費生活」
15	現代社会と『日本の思想』	まとめ、小論文発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

参加者はテキストをかならず予習すること。読めない漢字は予め調べておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況および予習の程度。 自発的思考能力。討議能力。 小論文における理解力。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『日本の思想』	丸山真男 / 岩波新書 / /
『近代による超克 戦間期日本の歴史・文化・共同体 上』	ハリー・ハルトゥーニアン / 岩波書店 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

学生との直接対話 / Talk with Students

